

株式会社ゲブラナガトヨ

※2017年3月現在

代表者名	荒井 芳夫	資本金	5百万円
設立年	2000年4月7日	売上高	194百万円(2015年9月期)
事業内容	生産(花苗、野菜苗)	経営規模	田2.2ha、畑1.5ha、生産施設7,920㎡、直売所100㎡
従事者数	47人(うち女性30人。女性内訳:役員2人、一般職1人、常勤パート27人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>産前産後休業、育児休業、介護休暇育児休業代替要員を確保、就業時間の短縮、育児休業後の継続就業支援</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレの設置)、重労働等の業務改善</p>		



茨城県稲敷郡河内町

経営概況

(株)ゲブラナガトヨは、花苗やサボテンの生産などを行う法人である。茨城県稲敷郡河内町の本社では、ガーデニング用花苗生産、鉢花、育種、種苗販売、花き(施設・露地)の生産、加工・販売などを行う。また長野県八ヶ岳では「八ヶ岳ファクトリー」という生産農場・直売所の経営を行っている。

経営面積は田2.2ha、畑1.5ha、生産施設7,920㎡で、生産品種は約50品種に及ぶ。ペチュニア、マーガレットや多肉植物、エアプラン

ツなど、全てオリジナル品種や企画であり、主に展示会やカタログなどからの受注生産となっている。また、オランダ発祥の「花き産業総合認証(MPS)」を取得しており、その中でも「MPS-Q(花き生産物の品質向上、収穫から出荷までの商品管理体制の整備、トレーサビリティを保証する)」という認証を獲得しているのは国内でゲブラナガトヨ社のみである。

従業員は役員5名、正社員5名、常勤パート27名の計47名であり、うち女性は30名(役員2名、一般職1名、常勤パート27名)と多く、女性主体となって商品開発やブランド化を進めている。2015年度の売上高は1億9,400万円となっている。

1. 経営者の理念・意識改革

花き業界では育種や選抜は男性比率が高く、男性が花を作って女性が買うというチグハグな状況である。この現状を打開し、少しでも消費者目線に近づきたいということで、女性従業員の感性を大切にしている。消費者ニーズを元に、伝統的な手法や最新技術を導入し、男性育種家とともに、



異業種から参入した新しい観点をもった若手女性スタッフによる育種も行っている。

また、熟練した女性専門スタッフから新人女性スタッフまで、多くの女性スタッフの意見を聞いて育種の選抜を行い、新しい商品開発を行っている。商品のネーミングも女性が立案し、消費者目線と近い女性の目線での花きの選別や加工が行われることによって、受注の増加と認知度の向上に結びついている。

2. 子育て・出産に関わる制度

これまで産後休暇取得の実績があるだけでなく、育児休業中の代替要員の確保も行うことで、育児休業を取りやすい環境の整備に努めている。休業後も復帰しやすいように、育児に支障がでないように短時間就業時間を設定したり、気軽に仕事に戻ってこられるような職場の雰囲気づくりを工夫したりと、仕事と育児や家庭との両立がしやすい環境を作っている。今後は、保育士の資格を持った近隣住民と協力して託児所の併設も考えている。

3. 女性職員への登用と キャリアアップへの取り組み

独自のキャリアシートを用いた能力評価制度を導入し、年1回の“技術テスト”を行うなど、従業員自身の自己評価と会社側での評価をすり合わせながら昇給や昇格する仕組みが作られている。2016年度はパートから準社員への登用が2名あった。

こうしたキャリアアップを支援する取り組みとして、内部研修では、年2回、3日間にわたって会社全体での勉強会を開催しており、そこでは従業員間の技術の共有や商品開発に対する情報交換などが活発に行われている。また、外部研修においては県内外の他の花き生産者の視察や商業展示会などへの参加を通じて、生産や商品開発等に関す

る考えや視野を広げたり、技術の習得を図ったりしている。

4. 女性が働きやすい環境の整備

女性従業員の大半が子育て世代の母親であり、一人ひとりの働き方が違うため就業時間は個別に考慮している。具体的には、従業員各々でカレンダーに希望出勤時間や休み希望などの要望を書いてもらうようにして、そこに会社側の出勤要望などを記入してすり合わせる。従業員の要望に沿った勤務体制と、会社側の人員確保の段取りがしやすい工夫をしている。

また、作業速度が異なることから、「子育てママさんチーム」と65歳以上の「先輩チーム」にグループを分けて働いてもらうことで、チーム内での情報共有や意識の醸成が進み、効率よく作業ができるようになっている。管理しやすいように器具・工具の配置や番号付けを行ったり、葉牡丹の移植時の穴あけ器具といった、独自の器具の開発を行うなど、女性でも扱いやすく、指先の汚れやダメージを防げるような工夫が行われている。葉牡丹の穴あけ器具のおかげで、作業時間が2分の1程度に短縮でき、年間の人件費に置き換えると約32万円のコストダウンにつながった。

審査委員の声

女性主体の商品開発ブランド化を進めている。「世界で一つの花を創る」。取締役のひろこ氏は「どんな経験も無駄ではなく人に恵まれている」と生きる信念を持ち、包容力がある。社内制度の充実はもちろんのこと、権利と義務のバランス、会社からの要望、働く本人の境遇・要望とのマッチングに長け、働きやすい環境を作る。個を尊重し深い心のつながりがあり、組織全体がいきいきしてとても魅力的な経営体だ。